



特定非営利活動法人

発行：2015年7月28日
発行責任者：飯沼 一宇
仙台市青葉区中央 2-7-30 角川ビル 402

子どもの村東北

News Letter Vol.11

子どもの村福岡 5周年・子どもの村東北開村 記念講演会

ロバート キャンベル教授と語る 『子どもと家族』

7月3日、福岡市天神のエルガーラで、子どもの村福岡開村5周年、子どもの村東北開村記念の講演会が開かれました。

会場には、子どもの村福岡を継続して支援して下さっている方々をはじめ、キャンベル教授の講演に関心を持った方など、250名を超える参加者を迎えました。開会挨拶の後、SOS子どもの村 JAPAN の坂本常務理事が子どもの村福岡及び子どもの村東北の紹介をスライドで行った後、講演、座談会へと進みました。

【第1部 基調講演】

江戸時代の絵本に見つけた庶民の子育て

基調講演では、東京大学大学院教授であり、テレビなどでも軽妙な語りで人気のキャンベル教授から、「子どもと家族」についてどんな話がうかがえるか興味津々のなか、子どもの頃に抱いた日本への関心からはじまり、研究者となつてからは、日本には他国に類を見ない子どもを大切にしてきた文化があることを知ったと語られました。

ボストン美術館で発見された、江戸時代の庶民の暮らしを偲ばせる「教訓刷物貼交帖」（いわゆるスクラップブック）を紹介、江戸時代の人々が子どもたちをどのように病から守り、絵本を通して教訓を伝えようとしていたかがわかる貴重な資料であること、また、災害や病気で子どもが家族を失ったとき、ごく自然に、地域共同体や宗門などで育てていたことを紹介され、そこには、子どもが原点であり、社会の宝として見守る大人たちがいたと語られました。

【第2部 座談会】

改めて、子どもにとって「家族」とは何かを

座談会では、SOS子どもの村 JAPAN の松崎理事の司会のもと、まず始めに、子どもの村福岡の大場美德村長が、現在13名の子どもたちが、暮らしているが、これまで一時保護も入れて39名の子どもたちを、地域の人々に支えられながら育ててきた日々を語りました。

子どもの村東北の今野和則村長は、東日本大震災で親を失った子どもたちのその後の状況を報告、子どもたちがまだ3名の、始まったばかりの子どもの村の様子を伝えました。

子どもの村福岡の開村の時から、育親として子どもたちを育ててきた松永美樹さんは、はじめての子育てに悪戦苦闘しながら、子どもたちには普通の穏やかな生活が大切と考えて日々を過ごしてきたこと、自分にとって学びの多い5年だったとふり返りました。

キャンベル教授は、アメリカで同性婚を認める最高裁の判決で、社会の見方が根底から揺さぶられるような出来事が起き、「家族とは何か」を改めて問われていることを紹介、それぞれの立場からの意見が交わされました。

最後に、キャンベル教授は、互いに遠く離れた二つの子どもの村の交流によって、今後、どんな“化学反応”が起きるか楽しみと語って、会場はあたたかい笑いと共感に包まれました。



会場の様子



基調講演の様子



座談会でのキャンベル教授



座談会の様子

「第4年度総会」が開催されました



総会会場の様子



議事進行の様子



新理事挨拶の様子

6月20日、NPO法人「子どもの村東北」の第4年度（2015年度）定時総会が戦災復興記念館（仙台市青葉区大町）で開催されました。

2014年度は、仙台市太白区茂庭台に村の建設（第1期工事：センターハウス1棟、家族の家3棟）が完了し、12月に入ると、村長・育親2組・センタースタッフ・育親アシスタントが入村。12月19日には開村式を挙行了ことが報告されました。

子どもの受入れ状況は、2月に2名、4月に1名が入村し、2組の育親のもとで現在生活しており、環境に馴染んでいることも報告されました。

決算報告の収益に関しては、企業団体の支援寄付収益が目標を下回ったものの、建設工事が始まったことで多くの方の関心と理解を得られ、一般寄付収益が個人、企業団体とも予算を大きく上回ったことが報告されました。支出に関しては、村の運営事業を6カ月間と予算を組んでいたものの、実際は、4か月の運営であったため予算を下回ったこと、開村に向けて関係者一丸となり取り組むなかで、建設・資金開発・財務関係の業務のための出張がかさみ、旅費交通費が予算を上回ったことなどが報告されました。

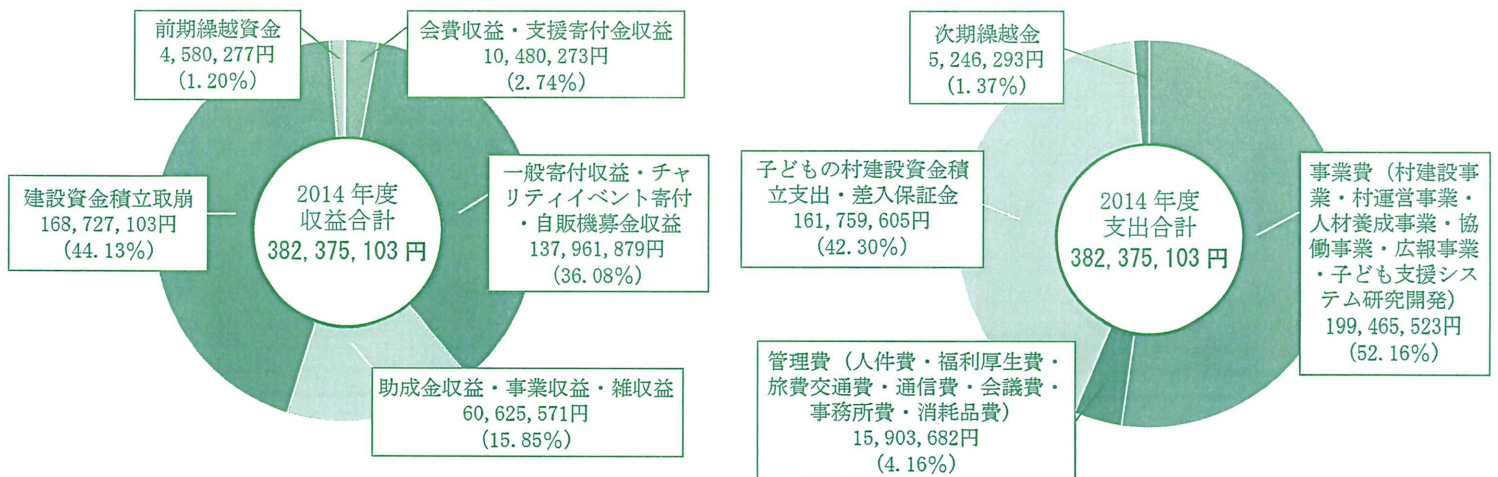
2015年度は、子どもの村の運営資金確保をはじめ、法人の各事業の円滑な取り組みのため、組織全般の実行力ある体制作りを進めること、子どもの受入れに関しては育親家庭3家族、子ども6名以上の養育をめざすこと、一時保護の委託受け入れに取りかかること、センターハウス事業として、外部専門家と連携し村の子ども・育親の支援を行うとともに、関係機関・団体と連携し、震災孤児を育てる親族里親をはじめ、地域の里親や子育て家庭への支援を行うことなどの計画が提案されました。また、資金確保の取り組みを積極的に展開するため、正会員・支援会員・募金箱・飲料自販機の拡大キャンペーンを実施することも提案されました。特に、予算案の約7割が寄付収入であることから、支援寄付、一般寄付ともにその確保に注力していくことが重要であるとの認識がなされました。

さらに、組織全般の実行力ある体制作りを進めるため、新たに正会員から高田修氏、城戸金蔵氏、西大立目祥子氏、猪又明美氏、加藤幸子氏の5名が新理事に推薦されました。

審議の結果、事業報告、決算報告、事業計画案、予算案、理事増員の件が満場一致で承認されました。尚、事業報告、決算報告に関しましてはホームページでもご覧頂けます。

◆会計報告

子どもの村の建設・開村という一大事業を進めていた2014年度は、支援会員の皆様をはじめ、個人・企業・団体など多くの皆様からのご支援により、目標を達成することができました。また、人材養成や協働事業などの事業費に資金を支出し、円滑な運営を行うことが出来ました。



☒ 村だより “育親に聞く”

阪神大震災でできなかったことを、
東北の子どもたちのために



🏠 育親 岡山環さん

今年4月から子ども1人といっしょに暮らす。ピアノやギターが得意。

兵庫に家族を置いて、単身、育親としてこの村にきました。3人の子供たちも、一番上は結婚したし、下の子は大学生になっていて、「オカン、行ってきなよ」って賛成してくれて。人のために動く方が、パワーが湧くんです。私。

振り返ると、阪神大震災の経験があるのかもしれませんが。うちはコップ1つ割れなかったんですが、郵便局で働いていたので家族を失ったり、家をなくした被災者と同じ毎日が続きました。それがつらくてね。親を亡くした子もいっぱいいて…。そのとき、何もできなかった自分をずっと負い目を感じてきました。

2013年の春、ボランティアに来た石巻のようすに驚きました。2年経っているのに、よくなっているように見えなかったから。神戸の進捗とは違う、と感じたんです。親を亡くした子はどうしているんだろう、と心配になって、それが、村に私をつなぐきっかけになったんです。地元にも里親はできるんですが、私自身にスキルがないから、難しいことに直面したとき頼れる存在があった方がいい。この村にはその体制が整っているんです。

いま育てている子と会ったのは、今年の2月。ディズニーのアニメ映画「ベイマックス」のテーマをピアノで弾いてあげたら大喜びして(笑)。4月から、村の家でいっしょに暮らすことになりました。

とっても活発でサッカー、バドミントン大好き。地元の学校に通っていて、お友だちが毎日遊びにくるんですよ。でも一方で、感情を出さないというのか、泣かない子だったんです。それが泣くようになりましたね。この間も、買い物に行った先で叱って「先に帰るよ」といったら、泣きながらついてきました。そうかと思うと、お皿を割ったあとに、話しかけれないほど固まって立ち尽くしていたりする。あれは、どうしてなのでしょう？何かいやな記憶があるのでしょうか…。

毎日が手さぐりです。やっていけば自信がつくかと思っていたけれど、逆ですね。子どもってそういうものなのでしょうね。成長に従ってつぎつぎ新しいことが起きる。自分の子育てを振り返りながら、とまどったり迷ったり。そういうときは、スタッフの部屋で相談です。とにかく、ちゃんと育ててあげたい。

実は、私が仙台にくることに、主人は猛反対だったんです。「離婚届書いてけ」なんていうほどに。でも、いまは探し物があると、「あれ、どこだっけ？」って普通に電話をかけてくるの(笑)。

身近な人たちの力を借りながら、
子育てをゆとりあるものに。



🏠 育親 伊藤奈美さん

2014年12月に入村。家族4人で暮らす。趣味は水彩画。

村で、子ども2人と主人と私の4人暮らし。主人は、ここから通勤しているんですよ。

里親になろうと思ったのは2014年の春でした。夫婦そろって子どもが好きだし、看護師の経験があるのでその経験も役にたつと思って。

でも、子どもたちは、肉親との死別やつらい経験をしているでしょうから不安はありました。そんなとき、主人が「子どもの村東北」の資料を持ってきたんです。「ここならサポート体制があるから、きっと育てられる」。そう思ってすぐ話を聞きに来たんです。そして、相談にのってもらい研修も受けてここに引っ越してきました。

村では、臨床心理士の山崎理事はあれこれ相談にのってくださるし、村長の今野村長は「村長〜！」と助けを求めれば、その場でアドバイスをくれる。気軽に話ができるスタッフもいる。体制が整った村だから、安心して子育てできるんですよ。育親になる前に感じていた不安は、ずいぶん軽くなりました。

安心できる居場所ができ気持ちが安定してきたからでしょう、子どもたちはとにかくご機嫌でいてくれます。朝もエヘへと笑いながら起きてくるんですよ。一緒に暮らし始めたばかりの頃はムスッと無表情だったのに。2人とも、よく歌を歌うようになったしね。自分の部屋を持たせ繰り返し話しかせるうち、片付けの習慣も身につけてきました。上の子の部屋はほんとにきれいな引き出しの中まで、きちんと整理整頓してるんです(笑)。

私自身の精神状態も子どもたちに影響します。余裕を持って接するためには、適度に子どもと離れる時間も必要なんですよ。絵を描く時間を持ったりして、気持ちをリフレッシュしています。

もちろん、子どもたちの将来のことを考えると、不安になります。ちゃんとコミュニケーション力を持って社会の中でやっていけるようになるだろうか、って。

そういうことも含めて、育親は特別なことをしているのではなく、子どものそばにいてあたりまえのことをやっている存在、ということ伝えていきたいですね。



【インタビュー】 西大立目 祥子 理事

フリーライター、青空編集室主宰。
著書には「仙台とっておき散歩道」「寄り道・道草
仙台まち歩き」など。



☒ 「もうひとつの絆」フォーラム開催

宮城県里親支援機関事業

子ども☆はぐくみファンド



Save the Children JAPAN

今回のフォーラムは、6月28日13:00から、石巻市桃生公民館（石巻市桃生町中津山字江下10）で61名の参加者を迎え開催されました。はじめに、宮城県東部児童相談所の佐藤由華次長から里親を待っている子どもたちの状況が報告されました。続いて、評論家で著書「子どものための親子論 - 〈親子になる〉 - という視点」などで知られる芹沢俊介氏による『「二重の親」について～親になるということ～』と題した特別講演では、「生みの親」が「受け止めての親」に移行することが大切であり、「二重の親」になれないケースに虐待につながる人が多いことなどが語られ大変興味深い内容の講演でした。また、恒例のトークセッションでは、ファミリーホームをされている成嶋幸子氏を囲み、苦労話や里親だからこそ味わえる喜びについて語り合いました。会場には、これから里親になろうとする方の姿もあり、有意義な時間となりました。



行政報告の様子



特別講演の様子



トークセッションの様子

第4期公開講座③(里親専門研修)のご案内

今回は、9月12日(土)13:30より杜のホールで、兵庫県こころのケアセンターの大澤智子氏による「里親のメンタルヘルス」という内容です。皆様のご参加をお待ちしております。詳しくはホームページをご覧ください。

◇◇◇ 多くの企業・市民の皆さまに一層のご支援をお願いいたします ◇◇◇

■支援方法1：支援会員として継続的な支援寄付により支えてください。

◎個人の方

寄付額は任意ですが、年間3,000円以上でお願い出来れば幸いです。

◎企業・団体の方

寄付額は任意ですが、年間30,000円以上でお願い出来れば幸いです。

■支援方法2：ご寄付をお願いいたします。

金額は問いません。いつでもお受けいたします。

■支援方法3：募金箱設置をお願いします！

店頭や受付、待合室等に募金箱を置かせてください。約縦10cm×横10cm×高さ20cmの募金箱です。ご連絡をお待ちしております。

■支援方法4：ボランティア募集中！

募金活動や事務作業、村での草取り・日曜大工など可能な形でご協力ください。

◆ご支援いただいた企業・団体のみなさま (2015年5月16日～2015年7月15日)

公益社団法人仙台中法人会女性部会・羽ばたこう「子どもの村東北」支援実行委員会・アイ・エム株式会社・沼津5中19回同窓会一同・宮城中央ヤクルト販売株式会社・宮内歯科医院・暮らしに押しばなをの会・大日本住友製薬株式会社・鳥取福音ルーテル教会・石井小児科・仙台東ロータリークラブ・Freundeskreis Tsunami-Waisen KIBOU e.V・防災フェスタ実行委員会・金沢市社会福祉協議会(保育部会)・文化横丁共栄会・fhans 芦屋店・有限会社楽喜夢・国際ソロプチミスト宮城・川崎聖パウロ教会・東京南ロータリークラブ・G-HAIRO 下園弘文・一般社団法人須走彰徳山林会・一般社団法人一色郷栄会・一般社団法人須山振興会・一般社団法人御殿場愛郷報徳社・一般社団法人中畑愛郷会・一般社団法人印野郷土振興協会・一般社団法人古沢共和国・一般社団法人玉穂報徳会・一般社団法人竜報徳社・一般社団法人原里愛郷振興協会・医療法人社団原口小児科クリニック・医療法人五十嵐小児科・おおぬま小児科・アオイ産業株式会社・株式会社メガネの相沢・医療法人加納こども医院・有限会社白川牛肉店

*敬称略・順不同

◆支援会員

*個人会員 589名

*団体会員 40 企業・団体

2015年7月15日現在

Web & Facebook ヘアアクセス

子どもの村の今をご覧ください



URL

<http://soscvtohoku.org/>

Facebook

<https://www.facebook.com/soscvtohoku>

特定非営利活動法人

子どもの村東北

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30 角川ビル402

TEL: 022-748-6936

FAX: 022-748-6931

E-mail: tohoku@soscvj.org

【子どもの村 センターハウス】
〒982-0252 仙台市太白区茂庭台2丁目16-9-1
TEL: 022-281-9653 FAX: 022-281-9659
E-mail: center-t@soscvj.org